

第27回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

と き 平成29年2月21日（火）
テーマ 里親制度について知ってほしい
参加者 美作地区里親会の皆さん

市長が美作地区里親会の皆さんから、
里親制度についてお話を伺いました。

参加者 里親制度は、親の病気や離婚など、さまざまな事情により、家庭で暮らせない0歳～18歳の子どもたちを、里親が自分の家庭に迎え入れて養育する制度です。

里親には、自分の子どもを育てた後に里親をしたいと思った人や子どもに恵まれなかった人など、さまざまな人がいます。里親になるために、年齢や発達障害など、子どもの状況に応じた知識や養育の仕方を身に付けるために、研修を受講して資質を向上させています。

また、里親同士が孤立を防ぎ、互いに支援し合えるよう、美作地区で里親会を作り、情報交換や交流を行っています。

市長 さまざまな理由で里親になる人がいることに驚きました。子どもたちを守るためにとても重要な活動ですね。

参加者 現在、実親から虐待を受けている子どもが増えていて、児童養護施設に預けられることが見受けられます。里親に預けてほしいのですが、実親に制度を理解してもらえず、結局、子どもをどこにも預けられなくて、虐待がひどくなる場合があります。里親を活用していただくことで、虐待を受ける子どもが少なくなればと願っています。

里親会では、県の児童相談所から出前講座への協力依頼を受け、できるだけ多くの人に里親制度のことを理解してもらいたいという思いで、講師として参加しています。里親制度の説明と合わせて、わたしたちの里親体験を話し、里親と里子の気持ちや環境などを伝えています。

里子を偏見の目で見るといって、多くの人に制度を理解してもらい、里子を社会の子として捉えてほしいと思っています。ぜひ、広報紙でも取り上げていただき、広く伝えられたらと思っています。

市長 子どもたちを支援するため、市民と行政との協働は大切ですね。わたしたちも、子どもたちを守るために自分たちでできることや、これから何をすべきかを考えないといけません。広報紙では、10月の里親月間を軸として掲載を検討していければと考えています。